

震災ボランティア派遣 FAX通信⑫



2011年7月15日

週末ボランティアもOK!

各組合・地域労連

御中

青森県労働組合総連合

青森市大野字若宮165-19

TEL 017-762-6234、FAX 017-729-2186

メール ao110@kenrouren.jp

【発信者】事務局長 有馬美恵

第4チーム行ってきました！ 活動地域は陸前高田市にうつりました

ボランティア活動の地域は、大船渡市から陸前高田市に変わりました。これまで道路が寸断されてまだ復旧支援の手が届いていない地域がありましたが、仮設橋を設置するなどしてやっと入れるようになったからです。陸前高田市を中心にしながら、沿岸部の地域での要望にもとづいた活動を行います。陸前高田市では、社会福祉協議会のボランティアセンターで登録し、そこでの指示に基づく活動となります。主な活動は、公共機関・個人宅の片付け・清掃、ヘドロの掻き出し、がれき撤去、側溝のヘドロの掻き出し、支援物資の仕分け・提供などです。

柿崎さんの感想



以前からボランティア活動には興味があったのですが、なかなか踏み切りがつかないというか、実際にどんな活動をするのか？宿泊は？など考え出すときりがなく、なかなか実行に移すことが出来ませんでした。

しかし、東日本大震災のボランティア活動に参加された、ひだまりユニオンの田中さんから話を聞き、5月で仕事を辞めて時間もあることだし、特別危険でもなさそうだとやることで、今回参加する決心をしました。

7月8日（金）～10日（日）の3日間行ってきました



第4チームの、右から柿崎さん（ひだまりユニオン）、山崎さん・立花さん（青森民医労）。3人で車に乗り合わせて行った。初対面でもすぐ仲良しに。

7月8日の朝7時半に県労連を出発し、お昼ころ陸前高田市ボランティアセンターに到着しました。平日ということで人はそれほど多くなく、意外とのんびりした雰囲気でした。まず受付で、用紙に必要事項を記入し、登録します。今回は私と民医労の立花さんと山崎さんと3人で現地入りしたので、3人で午後から出来る作業をマッチング（こんな仕事をしたいのですが、いかがでしょうか？というシステム）していただき、陸前高田市立子友小学校の運動会のテント設営の手伝いをする事に決まりました。

昼食後、車で現地まで移動しました。途中の風景はテレビの報道で何度も目にしたそのままの姿、いやそれ以上というか、たとえていうなら原子爆弾で破壊されつくした広島のような街のようです。街中はまだまだ瓦礫が山積みの状態で、車の残骸もまだ残されたままです。ニュースや報道では徐々に復興の兆しが見えてきているとっていますが、私の目から見た市街地はまだ復興の兆しどころか、とりあえず瓦礫を寄せ集めて積み上げただけにしか見えませんでした。

子友小学校に到着して先生と話をしましたが、震災当日は校庭まで水が来たそうです。被害はそれほどでもなかったようですが、すぐ近くの子友中学校は津波にあい、2階までガラスが割れて校舎にもかなりの被害が出ていました。

午後2時半ころから、明日(5月の予定が延期したようです。)運動会の準備を始めました。先に到着していたボランティア団体の方々とテントの設営作業に入ります。仕事で何度もテントを設営した経験があったので、約1時間で作業は終了し、無事にテント4張が完成しました。作業後はみんなで記念撮影し、現地解散となりました。子友小学校の子供達は喜んでくれましたが、校舎のすぐ下は、まだ瓦礫が一面に広がっていました。なんとも複雑な心境です。ボランティアセンターに戻り作業終了の報告をし、初日の作業は終了しました。

二日目は土曜日。前日と変わって、ボランティアセンターは全国各地からバスや自家用車で参加する方々であふれかえっていました。一番遠いところで京都のナンバーの車を見ました。休日にボランティア活動をしようという方々が全国からたくさん来ていました。受付でマッチングをしていただき、午前中の作業が決まりました。午前の作業は、民家の家具の運搬です。車で現地に移動し、作業を開始します。先発隊として作業をしていた東京の都民ボランティアの方々と一緒に家具の運搬を始めます。家主の方の話では床上60cmくらいまで水が来たそうです。海からはかなりの距離があるので、川から逆流した津波で浸水したようです。人数が多いため、スムーズに作業が終わり、家主の方に挨拶をしてまたボランティアセンターに戻ります。午後からの作業は建材の仕分けに決まりました。津波で建材が泥をかぶってしまい、使えるものと使えないものに仕分けし、使えるものはフォークリフトのパレットに積む作業です。

現地に着き、今度はマスクをつけて長靴を履き作業します。真っ黒い泥が体積している資材置き場の作業は最高気温33℃であったことから全身から汗が噴き出し、30分ごとに休憩を入れて休みながら行いました。かなりの暑さのため、午後3時ころに作業を終了し、また全員で記念撮影となりました。初めて会う者同士が男も女も年齢も関係なく同じ目的のために作業する。その結果、何ともいえない親近感というか打ち解けた感じになり、ずっと以前から知り合いだったように話が出来る。なんとも不思議な感じでした。作業終了後またボランティアセンターに戻り、報告して二日間は終了しました。

~~3日目の報告は次号につづく~~

第5千一ム (高教組4人)、7月24日出発決定!